

令和四年年四月六日（水）、東京都北区の北とびあに於いて「第三十三回花と緑の吟行会」が行なわれました。選句結果は以下の通りです。

## 大会賞

青淵像立つさへづりの降るところ

沼尾 将之

散り敷きて嵩なきものに花の塵

栗原 公子

## 菅野 孝夫選

### 特選

散り敷きて嵩なきものに花の塵

栗原 公子

荒川線昭和の御代とフリージア

栗坪 和子

弁当に落花の贅や飛鳥山

石川 笙児

### 入選

花の山路面電車の車窓より

斎藤 彩子

貝塚に貝の重なり飛花落花

平松うさぎ

花の屑都電通りを転がり来

菊田 一平

喧噪をすそに落花の飛鳥山

水野 佳代

桜蕊降る半日を飛鳥山

菊田 一平

囀や小鳥の舌のよくまはる

中村 藍人

吉宗の桜さくらの飛鳥山

山崎 奈穂

女神像の乳房に春日差しみたり

藤川三枝子

佐保姫とともにぐると飛鳥山

佐藤 彬

飛鳥山低きを愛でて春深し

水島 昌恵

音無川の岩にはばまれ花筏

小松 禮子

蒲公英や人の暮しに感染症

萩原 敏子

一羽いる音無川の春の鴨

木村 範子

葉桜や王子名物卵焼

草間由美子

鶯の声に誘はれ飛鳥山

雨宮 則子

未だはなの匂を残し花の屑

川高郷之助

喧噪のとぎれて垂るる桜かな

枝松 久子

清明をひと日過ぎたる鳥の声

甕 秀麿

春惜しむ王子稲荷の狐雨

内田恵理子

機関車の黒きかたまり桜散る

中村 幸子

佐怒賀 直美選

特選

ひとひらを加へて花の石畳  
うららかや都電行き交ふ坂の街  
風光る赤きTAILの晩香廬  
青淵像立つさへづりの降るところ

入選

芽吹初め青天を衝く銀杏かな  
花の屑都電通りを転がり来  
喧噪をすそに落花の飛鳥山  
絵硝子に赤き竜の目春愁  
役目終へし車輛に花の降りしきる  
散る花やもう上げられぬお石様  
おほどかに駘蕩を吐くきつね穴  
うす紅に染まるさへづり飛鳥山  
カーブして都電の浴びる落花かな  
抱かれて幼のふるる花木五倍子  
二本榎越え花人となりにけり  
お石様びくともせず蝶の昼  
巖間から三筋流るる春の滝  
てふてふの高垣を越え善知鳥坂  
囀に空おほはれて飛鳥山  
花筏ふれあふ音の無かりけり  
仔をあやす狛犬にふる桜かな  
木の芽風石の狐の親子かな  
満開の桜の下に鳩のみて

佐怒賀由美子

田子 慕古

中島 妙子

沼尾 将之

和田 秀巳

菊田 一平

水野 加代

須田 節子

佐怒賀由美子

大竹多可志

竹田 絹子

伊藤美紀子

塩野谷慎吾

下谷内綾子

清水 和代

大谷のり子

吉井 康廣

永岡 好友

小坂 尚子

小坂 尚子

橘川 寿子

後藤眞由美

萩原 敏子

鈴木 直充選

特選

青淵像立つさへづりの降るところ

花散るや重ねし年をなほ重ね

飛鳥山低きを愛でて春深し

入選

貝塚に貝の重なり飛花落花

清明の風のやはらか狐穴

散り敷きて嵩なきものに花の塵

余所の子をひよいと抱つこや花の下

散る花やもう上げられぬお石様

石狐にコロナのマスク飛花落花

花木五倍子揺れて誘ふ旅ごころ

乳母車の子の垂涎に花の屑

真夜中は月に舞ふらむ花吹雪

カーブして都電の浴びる落花かな

目の笑ふ狛狐みて春の昼

遅しき大樹の根つこ春闌くる

清明をひと日過ぎたる鳥の声

うららかや酒まんぢゅうの最後尾

機関車の黒きかたまり桜散る

春灯や王子稲荷の鍵の穴

桜の夜王子の狐集ふべし

木の芽風石の狐の親子かな

なだらかや花を散きゆく飛鳥山

森に射る幾筋の日矢百千鳥

沼尾 将之

浦城 悠紀

水島 昌恵

平松うさぎ

甲州 千草

栗原 公子

梅沢 弘

大竹多可志

石川 笙児

山崎 奈穂

高柳 ちゑ

栗原 公子

塩野谷慎吾

長谷部かず代

小林 紫乃

甕 秀磨

山田 桂

中林 幸子

小西 弘子

甕 秀磨

後藤眞由美

梅田 実代

下山田 俊

藤田 直子選

特選

うつとりと石碑は古び飛花落花  
花吹雪すこし傾く飛鳥山  
咲き満ちて地に届かざる糸桜  
御石様の重ね座布団花は葉に

入選

花散りぬ鎮魂の碑を撫でるごと  
石の形ままの碑鳥雲に  
芽吹初め青天を衝く銀杏かな  
散り敷きて嵩なきものに花の塵  
春昼のながき警笛都電行く  
花吹雪に包まれすぐに残さるる  
役目終へし車輛に花の降りしきる  
散る花やもう上げられぬお石様  
おほどかに駘蕩を吐くきつね穴  
三代目の榎の芽立ち継がれゆく  
乳母車の子の垂涎に花の屑  
音無川の岩にはばまれ花筏  
目の笑ふ狛狐みて春の昼  
抱かれて幼のふるる花木五倍子  
罪深くして花屑を踏みて行き  
SLの深き眠りや蝶の昼  
飛花落花狐の穴の深き闇  
清明をひと日過ぎたる鳥の声  
鶯のだんだん本気戦止めよ

市村 栄理  
三上 程子  
市川 稲舟  
頓所 友枝  
重信 通泰  
岩田 和子  
和田 秀巳  
栗原 公子  
水野 加代  
木脇 祐貴  
佐怒賀由美子  
大竹多可志  
竹田 絹子  
仲 悦子  
高柳 ちゑ  
小松 禮子  
長谷部かず代  
下谷内綾子  
川高郷之助  
小谷 武生  
久保田英子  
甕 秀麿  
木村 茜

山崎 祐子選

特選 青淵像立つさへづりの降るところ

艶やかな枝現はるる残花かな

沼尾 将之  
齋藤 彩子

二本榎越え花人となりにけり

清水 和代

入選 行く春や音無川に耳を立て

須田 節子

早春の列の中なる落花かな

堤 宗春

喧噪をすそに落花の飛鳥山

水野 加代

春昼のながき警笛都電行く

水野 加代

音無川眠らせてをり花吹雪

古川 恵子

軒先を都電のよぎる春炬燵

田沢健次郎

散る花やもう上げられぬお石様

大竹多可志

おほどかに駘蕩を吐くきつね穴

竹田 絹子

音無川の岩にはばまれ花筏

小松 禮子

吊橋を渡り菫の薄繚

浦城 悠紀

陽炎やサクラトラムの新車両

大谷ノリ子

目の笑ふ狛狐みて春の昼

長谷部かず代

晩香廬の主の木椅子花吹雪

木下 光代

稲荷社へ続く園庭囀れり

原 真砂子

お石様びくともせず蝶の昼

大谷のり子

無礼講許されし地よ飛花落花

相川 幸代

てふてふの高垣を越え善知鳥坂

永岡 好友

機関車の黒きかたまり桜散る

中林 幸子

春灯や王子稲荷の鍵の穴

小西 弘子

花散るや深く礼して毛塚の碑

中島 妙子